## 従業員がミスをすれば るほど儲かる会社

ひかには提ミすすねしょででス。。 「ヒューー」なっていまれっていま 的 てれを防べてれなら、 を優仕間 では東北に ユー を防ぐか」が世ならば、いからは避けられたしてラー(-る企業 い間 て、、 、日々 でも然に これでも然に これでもが、 これの」との これは「人間でもれば、 これでもが、 12 頭らい0の間りし

ます。ためである。 い世にな人

か無経者考 ま け 福 ての事故のの事故のとです。 視営 でえ は「ミスは、の事故防止 下がも で できなくなっていると、人的ミスによる、人的ミスによるを、そんな風になまで、そんな風になる。 線ば 故脱了 源 服 止 事西 本 策故日 のそを本 てる営に陣 不れ受の

第159<del>号</del> 郵産労釧路支部 〒085-8691

をすかに前はでま 郵便事業(株) 釧路支店 私書箱44号

のが でする。こたもの 方テは 日針イ厳故 勤でをしを 教し与く発

て

す

因

に前

弁は

世

O)

足

社か言現場さ郵は く追り講原け在風浴勢責 え場す は、事故は無 にも批判を い」と研修で い」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で が」と研修で で しいう 、特場 じを うとて恫さにで

す喝いのう

を伴う仕事があります。万一、現金不符号があった場合、「1万円の不足」でしょうか。否、直接補でしょうか。否、直接補でしょうか。否、直接補いたり、時給が200円の不足」を発生させると、習鬼ではないでしょうか。ではないでしょうか。否、直接補が200×8×20」ではないでしょうか。 「200×8×20」ではないるのは最低6ヶ月の不足」をのは最低6ヶ月の不足」との目勤務であればいるの目ではない。 「200×8×20」ではないるのできれます。1日8時間、世界のは最低6ヶ月かかりであればいるのできればない。」にない。

悪に誤に度人 心い者は人間に及ばず、覚いですべての表現していている。 わ言者ば 1かるパワーからないのであるパワーかんばからで、営業に対していた。 のな りかで業故す。 な 任 ょ ラのは成は う を で恫な績言 個な ま減円出事

一足」 のするので現金が足りないによります。 ので現金が足が事がるの何で出しておいにトクだのでもなります。 儲かるといる はて2つの大 なかて場に金給すな明な個りに出合不額料れごで2人 制度に て いること。 「それを補でておいた方がしておいた方が いま /。1つは、社の大きな矛には常識に関 いう しません。 ている ない ないられる しません ないら、へいる 益がら ないがら ない はど 斜 ると会 とさえ、 が 構 にわるれる な原な 図 う事はんに用れたのでは、 に <u>~</u> ペナア 社社盾照 にるした仮のい告と不とは うが員がら ル価

の もかス 会

人 権 さ え信 無る 視 人社

す

人態を

**減る)ということにな** でも儲かる (人件 典山すと、会社は約20事故で1万円の損失

人建す。 りが万を務

と腹士

た方

になって、2万でも

かつがつがる

切示れ 談な

**b**, し、

うことに

ョこばさ以いを美た事体 ンれ ヨカ リ キー・ギ すいパで いっているようなものでいっているようか。「正直者はいますが、例えば営業を正当化して宣伝してされず、その実ミスすれられず、その実ミスすれば評価を下げられる。ば評価を下げられる。だいますが、例えば営業にとうか。「正直者はでしょうか。「正直者はでしょうか。」などとた者が報われる」などとた者が報われる」などと れ評れ外ま正辞者評と会 は が報われる が報われる が報われる が報われる がで、その事は がで、その事は が社とJP し組 W る人 い社ん

もでの察はは害故 ところが会社は必然を例に挙げると、 は修理不要、相手事にあり、当然行政が会社は必不注意で軽微な声が会社は必要が会社は必要があり、当然行政が会社は必要があり、当然行政がある。 ところが会社は必要は94、450円があり、当然行政が会社は必要がある。 ところが会社は必要が会社は必要があり、当然行政があり、当然行政が会社は必要にあった交通を表表して「成告」と、 政なは円手が ♥なは円手パラを 処違双。車イ、通 公三十二 分反方警両ク損事

と金分社 円的告は 減にご当 額賃処該

フ 簡 ح 単 もな を 愚 方 招か法 くなは V

ま

す。

す儲員 配かる構図がミスす.郵便事業 义 れ業 ば会 になってい、ばするほど会社は、は まど社

い姿で 姿です いので従  $\mathcal{O}$ 増収と業員 <u></u> でし 0 する、というのミスについ 方で ょ いとはほど遠いす。これです。これで うげ で会込

ることは が、大変 るとき、 が、大変 が、大変 学丨 などを分析 こ、そのミス-に減らすから 次に同様の いの学術的、科、ピューマンエラを分析することであることであいまることであいまることであることであいまることである。

また自同 はたかばか作配た 業がと例的の 大変重要なことで大変重要なことで大変重要なことで 焦り ったのかり、作業はいように があ 起こつ ぜ生 誤し

> いう具 。認 。因う生 。認 が、す確が あある認悪誤 るくはすい配

すな決外く任で。い、しによった。 無 に

法です。会社は金も 間もかけずに事故の 間もかけずに事故の がもする必要もなく をしているからです。 としているからです。 しかし、利用者が がったとしても、利用者が がったとしても、利用者が がったとしても、利用者が は会社に責任問題にも しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。会社として しようか。 善することのないのが・会社として何のが普通ではないで社に責任があるとたとしても、利用者いくら担当者が悪いくら担当者が悪いくら担当者が悪いがあると \*悪もする、分時方

は担当者の確認は担当者の確認は担当者の確認ない、という理屈です。という理屈です。という理屈です。という理屈です。という理屈です。という理屈です。という理屈です。という理屈では、また個人に原因は、また個人に原因は、また個人に原因は、また個人に原因は、また個人に原因は、ところが会社は 法の変はは になりまいはなく、 ははなく、 ははなく、 はなく なら てか引

を出して自ら動いて と出して自ら動いて を出して自ら動いて を出して自ら動いて ー す折が年らす昇れを て 。、少、存。しば出っていま 見か少在理て、しま 見な少在理で で 直く子し論い **吐されてきています高齢化で若ましていますが、近れできている** 

げた仕 考前のたい世 を を を で にいて働かせるか。社 にいて働かせるか。社 にいて働かせるか。社 にいて働かせるか。社 にいて働かせるか。社 にいて働かせるか。社 にいるのです。 シ論 ションは、の中で、 ¢. 下や社 のり員 仕遂の

よりな から の は らの信頼をは、めば、 です 、火を見けて利用は 火 を る果者

す

### 上が ル マ かって 下気 がは

らき社 vます。 の経営 いのやる 性営の常識:いやる気をご しなったがこれといかに まる者近かで上れ気

分目社のか、9 との員ぱ、9

視している労働さなどということがあるということが い最いら最ら論 で 価 ません。 なお字になり います。 います。 います。 りも さ 価 n る。在れ な本てが本か福日

年12月1 機関誌「くまざさ 日375号より

支部

#### 郵産労空知支部機関紙

# くまざさ

#### 375号 2011年12月 1日

#### 郵政産業労働組合空知支部

発行責任者 渡辺 洋 事務所 072-8799 郵便事業(株)美唄支店内 5·FAX(0126)62-2453

WEBでも閲覧できます。http://www.yusanro-do.com/ から「くまざさ」 〔郵産労北海道 検索〕

#### 。郵政は「現代版女工哀史」?

JR西日本の福知山線脱線事故を受けての事故防止策。それまでは「ミスは本人の不注意。ミスや事故を発生させたものは厳しく追及し、ペナルティを与える」が会社の方針でした。かの有名な「日勤教育」などです。

現代において世界的には「ヒューマンエラー(人為的ミス)は避けられない。いかにしてそれを防ぐか」が主流になっています。JR西日本も、現在では「人間のミスは避けられないものがある。ミスは結果であり、原因ではない」と研修で講義するようになりました。個人の責任だけでは事故はなくせないという観点です。

郵政の職場ではどうでしょうか? 代金引換、着払い料金、国際税付荷物など配達の際に現金授受を伴う仕事があります。郵産労が国(当時)を相手にした「欠損金裁判」でそれまでの「任意弁償」制度はなくなりました。

「現金不符号があった場合個人で補填してはいけない」と職場に張り出されています。つまり、個人で不足分を払わなくてもよくなった訳ですが、期間雇用社員の人の場合、人事評価に直結して影響します。

例として「1万円の不足が発生した」結果、Aの習熟度有りから「なし」に。この場合、時給が200円下がります。1日8時間、月20日勤務であれば〔200×8×20〕で1ヶ月32,000円の減収になります。回復するのは最低6ヶ月かかりますから単純計算で192,000円、手当にも反映されるのでそれ以上です。

社員が業務事故で1万円の損失を出すと、会社は約20万円も儲かる(人件費が減る)ということになります。 建前は「現金の不足は個人に弁償させない」となっていますが「原因不明で現金が足りない」となった場合、正 直に申告すればただでさえ、低い給料がその何十倍もの金額を減らされる。仮に不足が事前にわかった場合、「そ れを補填して出しておいた方がはるかにトクだ」と考えない人はいないでしょう。

常識に照らして2つの大きな矛盾があります。1つは、社員がミスをすると会社が儲かる。社員のミスが増えるほど結果として会社の利益が上がる訳ですから会社は本気でミスを減らそう等とはしなくなる。もう一つは、「正直者はバカを見るのですよ」といっているような人事評価制度によるミスへのペナルティ。会社と「連合」系労組が一体となって導入したものですが、これが社員のモチベーションを上げることになるでしょうか。

現在も本部本社間の苦情処理委員会で係争中の、青柳前分会長の交通事故も同じ。自車(2輪)修理不要、相手車輌の修理費20,080円。警察の事故検証では双方の不注意で軽微な違反であり、当然行政処分もないのに「戒告処分」で賃金減額分94,450円。社員のミスにつけ込んで増収する、という会社のあり方でいいのでしょうか。少なくとも一流とはほど遠い姿です。

ブータン国王の来日で話題になった「幸福論」ですが、その観点から見ると郵政は「日本最大の会社でありながら幸福感を持って働いている社員の比率は底辺」といえるのではないでしょうか。

#### 「11.23」とめよう!なくそう!原発 北・中空知集会

北海道新聞空知板、プレス空知などで報道のとおり滝川スマイルビルに220人(プレス空知)が集まり、北海道大学で地球環境問題などに取り組んできた石崎健二先生(日本科学者会議会員・原発問題全道連絡会事務局次長)が「いま、福島原発を考える」と題して講演を行いました。集会終了後商店街をアピール・パレードして原発からの撤退を市民に訴えました。赤平分会からはOBも含めて4名が参加しました。